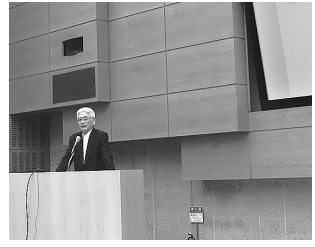


「深層防護」の考え強調

原子力学会 最終報告ドラフト公表



日本原子力学会の福島原子力発電所事故に関する調査委員会(委員長 田中知・東京大学教授、写真)は二日、最終報告書のドラフトを公表し、都内で説明会を開催して意見を求めるなどした。事故調査委員会は二年六月に、専門的視点から事故に関する深い分析を行うことを目的として設

国は、住民の立場でメッセージを

原子力委員会 リスコミで福島県の声聴く

原子力委員会は八月二十九日、福島県におけるリスコム(リスクコミュニケーション)の課題について、地元自治体のメディアなどからヒアリングを行った。まず、半澤隆宏・福島県伊達市役所市民生活部長は、住民説明会での経験をふまえて、国は平時から自治体や住民の自立を促し、リスコムコミュニケーションの訓練が必要だと語った。

また、丹波史紀・福島大学准教授は、生活再建とコミュニケーション再生を見ず、国際的な議論も参考にしながら、自立した生活を送ることが出来る仕事づくりも含む総合的な対応を求めた。

置され、学会内の専門部会等が総合的に参画して、調査・検討を進めてきた。説明会では、「原子力安全の基本的考え方」の検討を行ってきた専門委員が、分析から得られる事故の真因として、安全への認識不足を指摘し、「深層防護」の考え方を共有し徹底すべきとしたほか、過酷事故に対するリスク認識不足もあげ、

リスコム評価の仕組み構築が必要などとして、今後の既存プラントへの安全設計に向け、学会として基準策定、標準化に取り組みたい考えを述べた。学会では、事故発生直後から、環境修復に際して、積極的に議論してきて、今回報告書は、サイト外の対応にも触れており、除染活動で、除去した土壌等の取扱いが

産学連携の成功事例表彰

インベシオン

内閣府は八月十九日、科学技術・イノベーションの分野で、大学、研究機関、企業等による産学官連携活動を通じ、顕著な成果・貢献のあった成功事例十四件を発表した。この「産学官連携功労者表彰」で、文部科学大臣賞が、血管内治療の技術トレーニングのためのテーラーメイド超精密手術シミュレータの開発で、福田敏男氏(名古屋大学名誉教授、池田誠一氏(ライオン・ハイ

高浜でWANOレビュー

関西電力

関西電力の高浜発電所は八月二十三日、世界原子力発電事業者協会(WANO)によるピアレビューを終了した。ピアレビューは、二十日から

活かし、技術的検討を継続する体制を整えるべきとしていた。報告書ドラフトは、引き続き四日に、原子力学会が青森で開催した「秋の年会」の公開セッションでも説明が行われ、今後、海外からのレビューも踏まえ、ブラッシュアップを図り、最終版を取りまとめることとしている。

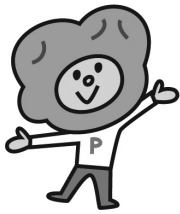
シノップ計画に協力期待 トルク投資庁長官 イルケル・アイジュー トルク投資促進庁長官は八月二十八日、外務省を訪問し、エルドアン首相との間で「戦略的パートナーシップ」の構築に関する共同宣言が署名されたほか、シノップ原子力発電所プロジェクトに関する政府間協定の合意等

福島第一 視察 再発防止を強調

山本内閣府大臣

山本一太・内閣府特命担当大臣(科学技術政策)は八月二十三日、福島第一原子力発電所を視察した。山本大臣は、福島第一

原子力ワンポイント



広く利用されている放射線 ⑬

原子力産業新聞では、二〇一一年一月に、「身の周りにある放射線の基礎」について解説する「原子力ワンポイント」コーナーを設けました。その後、福島第一原発事故に対応して同年四月からは、「緊急時の放射線影響・管理」に論点をシフトして、「日本の放射線・放射能基準(一番外編)」をとりあげてきました。今、事故から約二年半が過ぎ、今年の八月八日には原発から二十キロ圏内の警戒区域とその外側の計画的避難区域の再編が完了しました。完全な復興にはまだまだ多くの課題が残されていますが、生活再建を目指して将来設計の構築に向けた第一歩が踏み出されたと言えます。ここではもう一度、初めに帰り、「広く利用されている放射線」について解説したいと思います。

若林外務政務官はこれに対し、同宣言に基づいた両国関係の一層の強化とともに、同プロジェクトをはじめとするさまざまな大規模インフラ案件に対する投資を通じ、今後も日本企業の高い技術がトルコにおいて活用されることを期待するとしていた。

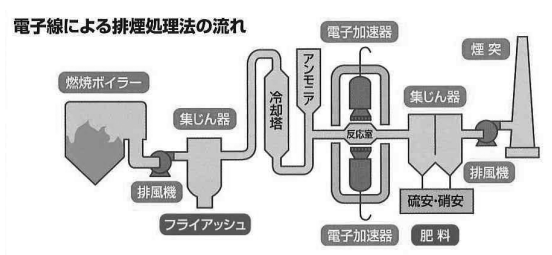
安全・品質管理で組織見直し 東京電力 東京電力は九月一日付で、原子力立地本部の

「原子力立地業務」と「原子力品質安全部」を、「原子力安全統括部」に統合し、本部内の安全品質に関する統制強化を図る。また、同日付で、福島第二発電所と柏崎刈羽発電所には、「原子力安全セクター」を設置し、平常の安全・品質管理を一元的に実施するとともに、緊急時の安全対策立案方を強化するほか、「原子力計画部」を設置し、発電所全体の計画立案・管理機能の一元化を図る。同社が三月末に発表した原子力安全改革プランに基づくもので、内部監査組織にも見直しが行われている。

今回は、日本が中心となって進めてきた放射線(電子ビーム)を利用して燃焼排煙中の硫黄酸化物や窒素酸化物を除去する環境保全技術などについて紹介します。

放射線で有害物質を無害化し環境保全

放射線を進められました。すなわち、この煙にアンモニアを加えた後に、図中の電子加速器から出てくる電子ビームを当てると、窒素酸化物や硫黄酸化物はそれぞれ硝酸(HNO3)、および硫酸(H2SO4)に変わります。そして予め添加されたアンモニアによって中和反応によって最終的には硝酸アンモニウム(硝安)、および硫酸アンモニウム(硫安)などの有用な肥料になります。つまり、有害物質から肥料を作る効果的な処理技術の開設ができるのです。



電子線による排煙処理法の流れ 燃焼ボイラー 集じん器 電子線照射 電子加速器 排風機 排煙機 集じん器 硝安・硫安 肥料

「原子力立地業務」と「原子力品質安全部」を、「原子力安全統括部」に統合し、本部内の安全品質に関する統制強化を図る。また、同日付で、福島第二発電所と柏崎刈羽発電所には、「原子力安全セクター」を設置し、平常の安全・品質管理を一元的に実施するとともに、緊急時の安全対策立案方を強化するほか、「原子力計画部」を設置し、発電所全体の計画立案・管理機能の一元化を図る。同社が三月末に発表した原子力安全改革プランに基づくもので、内部監査組織にも見直しが行われている。

世界のエネ事情で講演会 ニュークリアサロンの元原子力委員長藤家洋一氏が主宰する「ニュークリアサロン」の講演会が二十五日、東京大学の武田先端知ホールで行われる。講演会では、元IEA事務局長の田中伸男氏、元原子力委員長藤家洋一氏が主宰する「ニュークリアサロン」の講演会が二十五日、東京大学の武田先端知ホールで行われる。

放射線を当てて、肥料や土壌改良剤にするリサイクル技術が、インドやアルゼンチンでは実用化されています。ゆりちゃん 放射線は、医療用具の滅菌などで広く知られていますが、殺菌効果があるため、下水汚泥に放

放射線は、医療用具の滅菌などで広く知られていますが、殺菌効果があるため、下水汚泥に放

放射線は、医療用具の滅菌などで広く知られていますが、殺菌効果があるため、下水汚泥に放